

平成 21 年度 札幌市医療安全推進協議会(基幹会議) 議事録(発言要旨)

項目	発言者	発言趣旨
報告事項(1) 平成 20 年度札幌市医療安全協議会専門会議の実施報告について	事務局 (我孫子職員)	ア：専門会議(情報提供)についての実施報告 ・医療安全相談窓口広報について、様々な機会を捉えて広告を行うことや、紹介用のリーフレットの改定に関する意見があった。 ・医療安全講習会について、コミュニケーションについての講習を行ってはいかがかという意見があった。 ・札幌市医療安全支援センター事業概要の発行について、相談事例の検討等の助言があった。 イ：専門会議(院内感染防止)についての実施報告 ・ノロウイルス等の院内感染発生調査について、未発生の病院からも報告を得ることで全体像を把握できる等の意見があった。 ・多剤耐性緑膿菌の院内感染対策の具体的な手法についての助言があった。 ・病院内で耐性菌を作り出さないようにするための予防的な情報提供が必要との意見があった。 ウ：専門会議(医療事故防止)についての実施報告 ・保健所は行政として中立的立場で事故が起こる前の予防主体の対策を行ってほしいという意見があった。
	中田委員	・医療事故防止に関する会議について、8割が各病院で相談を受けているとのことであるが、その8割の相談者の満足度等の追跡調査等はあるのか。
	事務局 (佐藤主査)	・8割とは患者相談窓口を設置している病院数であるが、その満足度等については検証できていない。 ・窓口の対応度合いや対応内容も様々であり、今後精査する必要がある。
	加藤会長	・相談内容では、診療内容についての部分が多いが、対応できる範囲に限度があり困っているのではないか。
	事務局 (佐藤主査)	・診療内容等については行政として判断できるものではない。病院内での患者相談体制が整備されるよう働きかけていきたい。
	加藤会長	・医療事故についての受け止め方はどのようなものか。
	事務局 (佐藤主査)	・医療事故とはあくまで相談者の訴えであるので、実際の医療事故とは捉えていない。話を聞くと意思疎通に問題があるケースが多いと感じており、この部分での対策は今後も進めていきたい。
報告事項(2) 平成 20 年度医療安全対策について	事務局 (我孫子職員)	・平成 20 年度市民相談結果の概要(資料 2) について説明
	加藤会長	・医療に関する相談は通常であれば病院に直接言うのだろうが、それが第三者である保健所に相談するというのは意味深いことではないか。

松家副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の多い施設等の偏りはあるのか。メディエーター等の対策をとっている医療機関では、保健所に相談する割合が少ないのではないか。 ・相談が多い医療機関等の偏りがあれば、多いところに相談窓口の充実等の要望をするとよいのではないか。
事務局 (佐藤主査)	・具体的な数字はないが、保健所の調査では、相談対応者としてMSWを置いている病院が多かった。
加藤会長	・病院立入の確認項目に相談窓口の有無はあるか。
事務局 (田森課長)	・義務ではないが、全ての病院に対し聞き取り等の確認を行っている。
加藤会長	・患者相談において、各病院が受け皿として機能し、保健所に相談する市民が減るように病院側に働きかけていただきたい。
福島委員	・歯科も相談の内容は同一の傾向か。
事務局 (佐藤主査)	・基本的な部分は共通しているが、歯科としては治療費に関する項目が多いと感じる。
山口(路)委員	・薬局に関する相談は、資料2のグラフにおいて薬事関係施設に計上されているか。
事務局 (佐藤主査)	・薬局は薬事関係施設に計上されている。
山口(路)委員	・そのうち薬局はどれくらいの割合か。
事務局 (佐藤主査)	・割合として計算してはいない。薬局だけでなく販売業関連の施設も入っている。
山口(路)委員	・調剤や調剤事故に関すること、一般医薬品の販売に関すること、薬事法・薬剤事故に関することに分類して情報があれば会としても対策がとりやすい。
加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラッグストアで販売できる医薬品が拡大し、欧米における一般的な形態に踏み込んでいると感じている。 ・山口(路)委員の質問については、分類項目を工夫することで対処できると思われるので検討いただきたい。
花形委員	・統計の取り方について、一度医療機関等に相談したのか否かということについての分類は行っているのか。
事務局 (佐藤主査)	・そこまでの分類はしていない。個々のやりとりの中で把握できているものもあるが、統計として数字を持ってはいない。
花形委員	・そのような数字があれば保健所から病院への助言の仕方についても有効だと思うので検討していただきたい。
加藤会長	・これまでの意見は、チェック項目を検討することで対応可能ではないかと思われるので検討いただきたい。
事務局 (我孫子職員)	・医療安全講習会実施報告(資料3)について説明
加藤会長	・非常に多くの参加者があるが、自由参加であったか。
事務局 (佐藤主査)	・自由参加である。

	加藤会長	・自由参加で参加者が多いということであれば、このテーマについて問題視している医療関係者が多いということである。多くのトラブルの原点である説明について、どのように対処すべきかということは現在求められているところである。
	山口(修)委員	・当会で講師を派遣したのだが、講習会の反響・反応についての情報があれば情報提供いただきたい。
	事務局 (佐藤主査)	・講習会の際に「理解できたか」「役に立ったか」といった観点でアンケートを実施したが、約9割の参加者からおおむね肯定的な意見をいただいた。
	加藤会長	・実際に患者に対応している人の話は役に立つ。こういった観点で講習会を設定するのがよい。
	事務局 (飯田部長)	・今まで行政が講師として講習を行っていたが、実際に現場で対応している方の体験談を元にした講演の方が、参加者が現場に戻ったときに活用できるのではないだろうかと感じた。
	中田委員	・自身も講習会に参加させていただいたが、患者の身になってソーシャルワーカーの方が話してくれたので、医療の側も頑張ってくれているので、我々の患者側も言葉に出して歩み寄ることを患者に伝えていかなければと感じた。
	本郷委員	・施設別の参加者数を見ると、市内病院210に対し参加者99名と少なく感じるが、どのような職種が参加しているのか。
	事務局 (佐藤主査)	・病院限定での資料はないが、全体として多かったのが薬剤師、歯科医師、次いで看護師、医師という順の参加者であった。
	本郷委員	・講師がソーシャルワーカーであったので、ソーシャルワーカーのいる病院から参加しているのではという印象を持った。 ・逆にそのような職種を備えていない施設にこういった講習会を利用していただきたいと考えた。
	加藤会長	・病院に勤務している職員は講習を受ける機会は非常に多いが、薬局が50%の参加者があったというのはどのような背景だろうか。
	山口(路)委員	・薬局は医療法の改正で医療提供施設になったため、医療安全指針や業務手順書の作成が義務付けられ、医療提供施設としての自覚があるためではないか。
	加藤会長	・病院では講習は日々行っていて講習自体が目新しいものではないが、一般の診療所等については新鮮で役に立つものではないだろうか。 それだけにテーマや講師の選択が重要になってくる。
報告事項(3) その他	事務局 (我孫子職員)	・アドバイザーとして、平成21年2月20日に花形満弁護士に医療事故のアドバイスを頂いたことを報告

議事(1) 平成21年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針について	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度札幌市医療安全推進協議会の運営方針について(資料4) ・札幌市医療安全相談窓口の運営方針について(資料5) ・医療安全講習会の開催予定について(資料6)について説明
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応職員の交代・異動の頻度はどれくらいか。
議事(2) 平成21年度医療安全対策について	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談を受ける可能性のある職員が23名いるが、一般に3～4年間隔で異動するため毎年数名は入れ替わる。
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の希望テーマに関するアンケートについては、項目を選択する方式であったのか。
議事(3) 平成21年度事業計画案について	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事業として平成20年度より改善した部分はどこか。
議事(4) その他	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務に関する研修機会を多く設け、その内容を勉強会などで職員への周知、情報共有を図っていきたい。 ・広報についても、相談者がまず連絡をしそうな部署等に周知することで、情報を必要としている市民に相談窓口の情報が伝わるような工夫をしたい。
	中田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の効果は市民の受け取り方にも左右されるように思う。くらしの衛生展のアンケート結果によると、医療安全相談窓口を「知っている」と「知らない」という回答が同数であったが、相談窓口の情報は広報さっぽろにも掲載しており、読まずに捨ててしまう場面を見かけると悲しく思う。そう思うとラジオ番組も反響はどれくらいあったのかと思う。 ・その一方で、患者として相談する際には、速やかにお返事をもらいたいというようなこともあり、相談窓口でもそのような状況なのかと感じていた。
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の側の気持ちも大事だということもある。 ・講習会の内容が未確定とあるが、医療事故防止に関する取組みや事例についてというのは事務局案か。
	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会でいったアンケート結果を見ると、医療事故防止について、法律からのアプローチや事例の分析手法など様々な要望があるので、医療事故をキーワードとして行いたい。
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の内容については専門会議等で協議を行うことになっていたか。
	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・この場で意見をいただければ、参考にさせていただきたい。
	加藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の案は講習会のアンケート結果を参考に、事務局案として提出されたのか。
	事務局 (佐藤主査)	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。

加藤会長	・実際の取組みや事例について、実地に活かせる防止策や対応策をこれから練るといふことか。
事務局 (佐藤主査)	・特定の分野を希望する声が多いなどの助言があればいただきたい。
山口(路)委員	・講習会の参加者に確認したところ、薬局関係者は調剤等の卑近な事例を基に提示してもらえると、業務改善に結びつくという意見があった。 ・インシデント等が発生した段階で業務手順書の改定を行うなどの機会にするが、それが事例から学べるとよいという希望がある。
加藤会長	・講習対象を考えたテーマの選択が難しい。講師からの内容が特定の種別の医療機関に偏ると受講者は違和感を覚える。 ・それぞれの医療機関の人員体制・規模等が違ふと、観点やテーマも変わってくるという点も踏まえて事務局案を考えていただきたい。 ・テーマと講師はどこで決定するのか。
事務局 (田森課長)	・専門会議で意見等をいただければよいが、時期的な問題から難しいと感じる。 ・今いただいた意見と、講習会アンケートを参考にして最終的には事務局で決定すると思われる。
加藤会長	・委員に郵送等で相談する手段もある。 ・委員に相談する形に例年していつてはいかかか。
事務局 (田森課長)	・相談は随時させていただきたい。
事務局 (飯田部長)	・今までは一人の演者から一方的な講演であったが、シンポジウム等を行うことで、施設ごとの問題の共通点や違いが明らかになるかもしれない。 ・今いただいた意見でテーマとして考えたい。また、委員から原案として提示いただきたい。
加藤会長	・いい内容にしないと、参加者が失望して残念なことになる。 ・事業として今年度はさらなる進歩を期待したい。
事務局 (佐藤主査)	・平成21年度事業計画案(資料7)について説明
加藤会長	・おおむね例年どおりということに理解した。 ・他になければ議事を終了する。